狐と狸

田中貢太郎

青空文庫

燕の恵王の墓の上に、一疋の狐と一疋の狸が棲んでいた。二疋とも千余年を経た妖獣であったが、晋の司空張華の博学多才であることを知って、それをへこますつもりで、少年書生に化けて、馬に乗って出て往こうとすると、華表神が呼び止めて、

「君達はどこへ往くのか」

と聞いた。華表神とは墓の前にある鳥居の神である。狸は華表神の問いに答えて、

「司空の張華と、議論しに往くところだ」

と言った。すると華表木の精が、

「張司空は才人であるから、二人が命を失うばかしでなく、その禍が俺たちにもかかってくる、どうかやめてくれ」

と言ったが、狸と狐は聞かずに出かけて往った。

そして二疋で、張華の処へ往って、張華に逢って議論をはじめたが、その議論にはさすがの張華も弱りされた。張華はこの少年たちはどうしても人間でないから、化けの皮を剥いでやろうと考えていると、知合の雷孔章という者がやってきた。張華は雷孔章の顔を見ると、

「怪しい書生が二人来ている」

と言って話した。雷孔章は、

「君は国の棟梁で、賢者を薦め、不肖者を退けている人じゃないか、自個より議論が偉いとい

って、妖怪あつかいにするは怪しからん、しかし真箇に怪しいものなら、猟犬を伴れてきて、けしかけたらいいじゃないか」

と言った。

そこで張華は猟犬を伴れて、少年たちのいる室へ入ったが、少年たちは平気であった。

「僕達の才智は、天から与えられたものだ、それを却って妖怪として、犬を伴れてくるとは怪しからん」

と狸の方が言った。張華はこれを聞くと、

「百年の精なれば、猟犬を見れば形を現わすが、千年の妖なら、千年の神木の火で見ればきっと形を現わす」

と言った。雷孔章が、

「そんな神木がどこにあるか」

と言うと、張華は、

「燕の恵王の塚の前の華表木が千年を経ているということだ」

と言って、使をやってその木を取らした。その使が木の近くにゆくと、空に青い着物を着た小児が現われて、

「君はどこからきたのか」

と言った。使は、

「張司空の処から華表木を取りにきた」

と言った。すると小児は、

「あの古狸が馬鹿で、わしの詞を聞かなかったから、わしにも禍が及んできた」

と言って泣きだしたが、すぐ見えなくなった。

そこで使の者は華表木を伐ってみると、木の中から血が流れた。そして、その木を持って帰ってきて、それに火を点けてみると、狸と狐の姿が現われた。張華はその二疋をつかまえて※してしまった。

青空文庫情報

底本：「中国の怪談（一）」河出文庫、河出書房新社
　1987（昭和62）年5月6日初版発行
底本の親本：「支那怪談全集」桃源社
　1970（昭和45）年発行
入力：Hiroshi_O
校正：noriko saito
2004年11月3日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

狐と狸

田中貢太郎

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/